「今、ここ」から考える社会学 ⑵

（筆者は、スマートフォンが日常のあり方を大きく変え、私たちがスマホに〝飼い慣らされて〟しまっていると考えている。）

片手に収まる※端末としてのスマホ。それは画像や動画も撮れるし、鮮明な映像もみることができるし、もちろん電話の機能も備えています。すでにコンピュータの端末以上の機能を持っています。こうした道具を手にしてまさに一日中何らかの形で操作をすることで、私たちは「今、ここ」で、目の前にいるあなたとだけ出会えるのではなく、瞬時のうちに、①「今、ここ」を超越し、多様な現実とつながることができます。スマホを使いこなす日常で、私たちはいったい何を手にして、何が脅かされているのでしょうか。それは②端的に言って、「世界」を携帯する※悦楽であり、その裏返しとして「わたし」が不特定多数の匿名の人々にさらされる※リスクだと私は考えています。

コンピュータが開発されインターネット社会が登場してずいぶん時間がたっています。私はノートパソコンでこの原稿を書いていますが、少し前であれば、デスクトップのパソコンを前にしてキーボードを叩いていたはずです。原稿を書いて少しくたびれれば、ワードを閉じて、メールが届いていないか確認したり、ネットを開けてさまざまな情報にアクセスしたりします。ただこうした営みは、まさに「机を前にして」私がやっていることなのです。でも今は、「机を前に」する必要もないし、「ノートパソコンを膝の上に置く」必要もなく、ただ手のひらに収まっているスマホに指を滑らせることで、いつでもどこででも「世界」を自分の前に開くことができるのです。

③デスクトップからスマホへ。これは単なる道具の技術革新だけではないのです。「机の前に座ったり」「部屋にこもったり」「何インチかの画面に集中したり」など、まさにネットへ私たちが向きあうためだけに一定の手続きや姿勢の変更、意識の変更が必要だったのが、そうした身体的動作や日常的な意識の変更をせずに、いつでも私たちは「世界」と向きあえるようになりました。このことが、日常生きていくうえで決定的な生活の「革新」をもたらしたと考えます。

なにか特別な手続きや意識の変化など一切不要で、いつでもどこででもネット「世界」を開き、自分自身をそこで遊ばせることができるとすれば、これはこのうえもない刺激や興奮をもたらす、※えもいえぬ悦楽ではないでしょうか。

（好井裕明『「今、ここ」から考える社会学』筑摩書房 第3章による）

※端末…端末装置。通信ネットワークに接続する際に利用者が直接操作する機器。
悦楽…よろこび楽しむこと。　リスク…危険、危険性。
えもいえぬ…言いようもない、言葉で言い表せない。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1)　——線①「『今、ここ』を超越し、多様な現実とつながる」の例として、適当でないものを選びなさい。

ア　目の前の人々と会話し、その人たちの考えを理解する。
イ　インターネット上で、遠くにいる友人と交信する。
ウ　スマホを通じて、今、海外で発生している事件を知る。

〔　　〕

(2)　——線②「端的に言って」が表す意味として適当なものを選びなさい。

ア　言葉をにごして言うと
イ　細部までこまかく言うと
ウ　要点だけをはっきりと言うと

〔　　〕

(3)　——線③「デスクトップからスマホへ」とあるが、デスクトップからスマホへの変化によってどうなったのか。本文の内容に合うものを選びなさい。

ア　インターネットの世界に向きあうための動作や、意識の変更が不要になり、いつでもどこでもネットの世界を開くことができるようになった。
イ　インターネットの世界は仕事をするためのものであったのに、ネットの世界は遊ぶためのものになり、刺激や興奮が求められるようになった。
ウ　インターネットの世界にはパソコンでアクセスするしかなかったが、現在ではパソコンを使ってネットの世界を開くことはなくなった。

〔　　〕